
農業簿記検定 教科書

3級

大原出版

はじめに

わが国の農業は、これまで家業としての農業が主流で、簿記記帳も税務申告を目的とするものでした。しかしながら、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の拡大など、わが国の農業の課題が浮き彫りになるなか、農業経営の変革が求められています。一方、農業に経営として取り組む農業者も徐々に増えてきており、農業経営の法人化や6次産業化が着実にすすみつつあります。

当協会は、わが国の農業経営の発展に寄与することを目的として平成5年8月に任意組織として発足し、平成22年4月に一般社団法人へ組織変更いたしました。これまで、当協会では農業経営における税務問題などに対応できる専門コンサルタントの育成に取り組むとともに、その事業の1つとして農業簿記検定に取り組んできており、このたびその教科書として本書を作成いたしました。

本来、簿記記帳は税務申告のためにだけあるのではなく、記帳で得られる情報を経営判断に活用することが大切です。記帳の結果、作成される貸借対照表や損益計算書などの財務諸表から問題点を把握し、農業経営の発展のカギを見つけることがこれからの農業経営にとって重要となります。

本書が、農業経営の発展の礎となる農業簿記の普及に寄与するとともに、広く農業を支援する方々の農業への理解の一助となれば幸いです。

平成29年3月

一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会
会長 森 剛一

本書の特徴

本書は、第一に、個人農業者の所得税青色申告決算書（農業所得用）の作成に必要な知識を習得していただくことを目指しています。第二に、税務申告にとどまらず、個人農業者の経営に生かせる貸借対照表・損益計算書の作成の推進を目指しています。これらの理由により、本書には以下の特徴があります。

1. 「所得税青色申告決算書における取扱い」の併記

所得税青色申告決算書は課税所得の算定を目的として作成されるため、その考え方には、一般的な会計処理のルールとは異なる所得税法特有のものが含まれています。本書は簿記の教科書であることから、本文では、一般的な会計処理のルールに従った帳簿記帳方法を紹介し、参考として「所得税青色申告決算書における取扱い」を併記して、その違いを示しています。

2. 会計処理方針・勘定科目

会計処理の方針及び勘定科目は、公益社団法人日本農業法人協会が公表している「農業の会計に関する指針」及び「農業標準勘定科目」を採用しています。これにより、個人農業者の青色申告決算書では把握できない製造原価の把握を可能とします。また、法人化の際の移行を容易にします。

3. 家計と事業の関係

個人農業者の取引には、農業法人と異なり、1つの取引の中に、事業と家計とが混在することがあります。本書では、この取扱いについても、一般的な会計処理のルールに照らした会計処理を紹介しています。

農業簿記検定教科書

3級

目次

第1章 農業簿記の概要	1
(1) 簿記とは	2
(2) 簿記の種類	2
(3) 農業とは	2
(4) 農業の特徴	2
(5) 農業簿記の目的	4
(6) 会計期間	4
(7) 経営成績	4
【参考】収益・費用	5
(8) 財政状態	9
【参考】損益計算書とキャッシュフロー	10
【参考】貸借対照表・損益計算書とお金の流れ	11
第2章 簿記一巡の手続き	13
(1) 取引とは	14
(2) 仕訳と転記	17
(3) 仕訳帳と総勘定元帳	22
(4) 伝票による仕訳と総勘定元帳への転記	26
(5) 主要簿と補助簿	27
(6) 試算表の作成	28
第3章 勘定科目	33
(1) 農業簿記の勘定科目	34
(2) 農業経営と勘定科目	36
第4章 収益・費用の記帳方法	39
(1) 収益と費用	40
(2) 農業特有の会計処理	41

第5章 流動資産および流動負債など	47
(1) 流動資産	48
【参考】定額資金前渡制度	50
【参考】製品・仕掛品・原材料の関係	62
(2) 流動負債	67
(3) 固定負債	70
(4) 資本金	70
第6章 固定資産	71
(1) 有形固定資産	72
【参考】減価償却の考え方	72
(2) 修繕費と資本的支出	75
(3) 有形固定資産の売却	76
第7章 決算書の作成	79
(1) 決算書作成までの手順（一連の手続き）	80
(2) 決算の具体的手続き	81
【参考】貸借対照表・損益計算書への表示（直接法）	89
【参考】貸借対照表・損益計算書への表示（間接法）	90
■農業用固定資産の耐用年数の例	91
◇農業簿記勘定科目◇	118
◇参考文献◇	122
◇さくいん◇	123

第1章 農業簿記の概要

第2章	簿記一巡の手続き
第3章	勘定科目
第4章	収益・費用の記帳方法
第5章	流動資産および流動負債など
第6章	固定資産
第7章	決算書の作成

(1) 簿記とは

簿記とは、一定期間における企業の経済活動を一定の記録方法で帳簿に記録し、計算、整理して、企業の資産、負債、資本の増減を明らかにする計算制度です。経済活動を営む単位である経済体はその経済活動を記録し、かつ、その結果を計算する特定の体系を簿記といいます。

記入方法により**単式簿記**と**複式簿記**に分けられます。1つの経済活動に対し、1つの記録しか行わない単式記帳による簿記が単式簿記です。経済活動の記録に当たり、常に原因と結果の2つの面からとらえて複式記録を行うものが複式簿記です。

(2) 簿記の種類

企業簿記は企業の性格によって、次の種類があります。

商業簿記…商品を仕入れて販売する場合

工業簿記…工場で物を製造して販売する場合

銀行簿記…銀行など金融機関が貸し付けを行い、利息を得る場合

農業簿記…農業者が生物（植物、動物）を生産して販売する場合

建設業簿記…建設業や土木工事業などが工事を請け負い完成させ、引き渡しをする場合

そのほか、業種により、官庁簿記、病院簿記などがあります。

(3) 農業とは

農業とは、農地を耕して穀類、野菜、園芸作物などの有益な植物を栽培し、また植物を飼料として有益な動物を飼育して、人間の生活に必要な資材を生産する産業をいいます。広義には、畜産加工、林業も含まれます。

農業の場合、①種、肥料などの生産資材の購入、種を蒔き、植付け、②収穫するまでの生産活動、③農産物の販売と3過程から成るので工業簿記と同じような取引形態となっていますが、大きな違いがあります。それは、商業や工業の無機的生産に対し、農業は有機的、生物的生産であり、畜産関係は動物的生産であることです。

(4) 農業の特徴

1. いきものを通じた経営

農業の特徴は、農業者が生物（植物、動物）を通して経営を行わなければならないという点です。例えば稲作の場合、田に種を蒔いても芽が出る場合と出ない場合があります、生育

過程で枯れてしまったり、病気になったり、立派に育ったとしても収穫前に台風や水害に遭い、一夜にして収穫ゼロ、収入なしということがあります。また、みかんの樹などの果樹はその生育過程が長く、収穫を開始するまでに年月を要する分、リスクが大きいといえます。そして、肥育牛や豚などの畜産関係は、病気の流行や市場経済の流れの中で、販売代金や飼料などの仕入代金が大きく変動します。

いずれの場合も生物の生産活動を正確に記録、集計、整理することは重要なことです。生物に対して愛情をもって接していれば生物も応えてくれます。生物を愛することができる人が、立派な農業者であり農業経営者なのです。

2. 自然を相手にする

農業は、自然を相手にしなければならないため、経営活動が天候に大きく左右されます。工場や商店は定時になれば帰宅できますが、農業の場合は天候によって労働（勤務）時間も左右されます。特に、植付けや収穫の時期などに労働時間が集中します。

3. 価格の決定権

農業は、一般的に生産者自身が売り値の値決めができません。大規模農家の場合は自分で販路を開拓して、自分で値決めをして販売しているところもありますが、一般的に米などはJAへの委託販売であり、その代金の精算にも時間がかかります。豊作になっても値段が上がらず、豊作貧乏になったり生産物を廃棄しなければならない場合もあります。原価計算上の販売価格形成が取れないばかりか、ロス原価が発生してしまう場合があります。

4. 政策との関係

農業は、誰でもどの法人でも参入できるものではありません。農地法の要件に該当した者のみが農業参入の対象となります。また、国からの交付金、色々な助成金、補助金などについても、国の政策により大きく左右されます。

5. 収入の機会が限られている

工業生産であれば製品生産が失敗しても、比較的短期間で再生産へ向けての軌道修正が可能ですが、農業の場合、例えば稲作であれば1年に1回しか収穫ができない、あるいは果樹ならば十分な収穫がないまま3～8年手がかかるというように、失敗した場合における成功への軌道修正の道のりが長いのです。

6. 個人事業が主体

農業の場合、個人事業者が多く法人形態は少数です。個人農業者の場合は農業経営と家計が区分されていないことが多いので、会計帳簿について期末修正で農業所得を正しく計算する必要があります。例えば、自家消費や親類・友人などへの贈与消費などを正しく区分する必要があります。

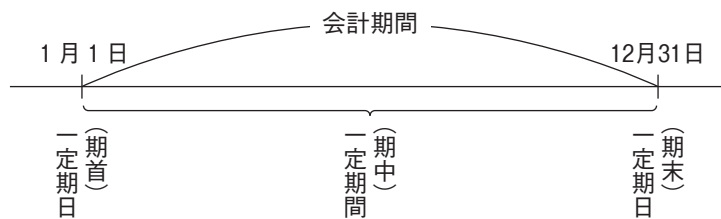
(5) 農業簿記の目的

農業簿記の目的は、正しい記帳を行うことにより、正しい損益計算書と貸借対照表を作成して、一定期間の経営成績を明らかにすること（損益計算書）、一定時点の財政状態を明らかにすること（貸借対照表）です。そして、正しい所得にもとづいた税務申告を行うだけでなく、農業経営の分析などを行い、農産物の生産に要した原価を把握してこれをもとに改善をはかり、農業経営の発展に寄与することが真の目的なのです。

(6) 会計期間

簿記の目的は、一定期間の経営成績や一定時点の財政状態を明らかにすることです。

農業者が個人の場合の一定期間とは、所得税の課税期間である1月1日から12月31日までの1ヶ年とします。この一定期間のことを、**会計期間**とといいます。一定時点とは、会計期間の最終日、その年の12月31日現在をいいます。



(7) 経営成績

経営成績は、損益計算書によって把握することができます。経営成績とは、一定期間の営業活動によって得た利益または損失が、どのようにして、いくら生じたかをいいます。この利益または損失は、一定期間に得た**収益**から、その収益を得るために犠牲となった**費用**を差し引くことによって明らかにされます。この差額を当期純利益と呼んで、次の算式で計算されます。

$$\text{収 益} - \text{費 用} = \text{当期純利益}$$

損益計算書は、一定期間に属するすべての収益とこれに対応するすべての費用とを対比させ、当期純利益を表示し、一定期間の経営成績を明らかにするための書類です。

【参考】収益・費用**<収益とは>**

農作物販売収入、作業受託料など役務提供による収入、国からの交付金収入など、当期純利益を増加させる原因となる事実をいいます。

少し硬く定義すると、企業の営業活動などによって得られた経済価値ということになります。つまり、

- ① 企業が外部に提供した財貨または役務を、その対価として受け取り、または受け取るべき貨幣額であらわしたもの
- ② 利益を助成する目的で外部から企業に提供された金銭、財貨などを貨幣額であらわしたもの

をいいます。

<費用とは>

種苗費、肥料費・農薬費・飼料費、農具費、諸材料費、動力光熱費、荷造運賃など、当期純利益を減少させる原因となる事実をいいます。

少し硬く定義すると、ある生産活動のために消費される金銭、すなわち生産要素、生産財に支払われる対価ということになります。つまり、財貨または役務について、それが消費されてその後の営業活動にもはや貢献しなくなった部分を貨幣額にあらわしたものをいいます。

【例】1

山田太郎（山田農場）は、新潟で稲作農業を営んでいる。ある1年間の営業状態は次のとおりであった。この期間の当期純利益を算出なさい。

営業による収入

水稲売上高	合計	10,000,000円
-------	----	-------------

営業による支出

種 苗 費	500,000円
-------	----------

肥 料 費	1,000,000円
-------	------------

農 薬 費	500,000円
-------	----------

支 払 地 代	250,000円
---------	----------

荷 造 運 賃	500,000円
---------	----------

農 具 費	1,000,000円
-------	------------

減 価 償 却 費	1,000,000円
-----------	------------

雑 費	500,000円
-----	----------

賃 金 手 当	3,600,000円
---------	------------

合計	8,850,000円
----	------------

<収 益>	<費 用>	<当期純利益>
-------	-------	---------

水稲売上高10,000,000円 - 支出合計8,850,000円 = 1,150,000円

【例】1にもとづいて損益計算書を作成すると、次のようになります。

損 益 計 算 書			
山田太郎(山田農場) 自××年1月1日		至××年12月31日	
(単位：円)			
費用の部	金額	収益の部	金額
種 苗 費	500,000	水 稻 売 上 高	10,000,000
肥 料 費	1,000,000		
農 薬 費	500,000		
支 払 地 代	250,000		
荷 造 運 賃	500,000		
農 具 費	1,000,000		
減 価 償 却 費	1,000,000		
雑 費	500,000		
賃 金 手 当	3,600,000		
当期純利益	1,150,000		
	10,000,000		10,000,000

費用は必ず左側に記入する。

収益は必ず右側に記入する。

損益計算書の関係を算式であらわすと次のようになり、これを**損益計算書等式**といいます。

$$\text{費 用} + \text{当期純利益} = \text{収 益}$$

また、収益に比べて費用が多ければ当期純損失が計上されますが、この場合の損益計算書は次のようになります（米の販売収入を8,000,000円とした場合）。

損 益 計 算 書

山田太郎(山田農場) 自××年1月1日 至××年12月31日 (単位：円)

費用の部	金額	収益の部	金額
種 苗 費	500,000	水 稻 売 上 高	8,000,000
肥 料 費	1,000,000	当 期 純 損 失	850,000
農 薬 費	500,000		
支 払 地 代	250,000		
荷 造 運 賃	500,000		
農 具 費	1,000,000		
減 価 償 却 費	1,000,000		
雑 費	500,000		
賃 金 手 当	3,600,000		
	8,850,000		8,850,000

(8) 財政状態

財政状態は、貸借対照表によって把握することができます。財政状態とは、投下した資金は誰から、どのような方法・条件で借入れ、または買い掛けして集めたかという資金の調達源泉の状態と、その資金をどのように使っているかという資金の運用状態をいいます。

資金の調達源泉（資金をどのように集めたか）…負債、純資産

資金の運用状態（資金をどのように使っているか）…資産

【例】2

牛山次郎は会社を退職し、農業（牛山牧場）を開業することにした。この場合の資金の調達源泉と資金の運用状態を明らかにしなさい。

12月20日 牛山次郎は、退職金のうち2,000万円をその商売に投下（元入れ）したが、資金不足のため銀行から3,000万円を借入れ、資金を5,000万円に増加させた。

<運用状態>		<調達源泉>	
資 産	牛山牧場は 現金 ¥50,000,000 を所有している。	他人から借り入れた分 ¥30,000,000	負債
		自己の正味の財産分 ¥20,000,000	純資産

12月31日 牛山牧場は、牛を2,000万円で購入し、現金で支払った。

<運用状態>		<調達源泉>	
資 産	牛山牧場は 現金 ¥30,000,000 牛 ¥20,000,000 を所有している。	他人から借り入れた分 ¥30,000,000	負債
		自己の正味の財産分 ¥20,000,000	純資産

貸借対照表は、企業の財政状態を明らかにするために、貸借対照表日（会計期間の最終日）におけるすべての資産、負債および純資産を記載した書類です。

【例】2にもとづいて貸借対照表を作成すると、次のようになります。

資 産 の 部	金 額	負 債 ・ 純 資 産 の 部	金 額
現 金	30,000,000	借 入 金	30,000,000
生 物	20,000,000	資 本 金	20,000,000
	50,000,000		50,000,000

資産は必ず左側に記入する。

負債および純資産は必ず右側に記入する。

(注) 牛の勘定科目は、「生物」を使います。

貸借対照表の関係を算式であらわすと次のようになり、これを**貸借対照表等式**といいます。

資 産 = 負 債 + 純 資 産

【参考】損益計算書とキャッシュフロー

損益計算書のみを作成して、貸借対照表を作成しないと正しい財政状態を把握することはできません。例えば、損益計算書では100の利益があるA農場について、貸借対照表から得られる情報も考慮してお金の動き（キャッシュフロー）を見てみます。

A農場の損益計算書、貸借対照表から得られた情報

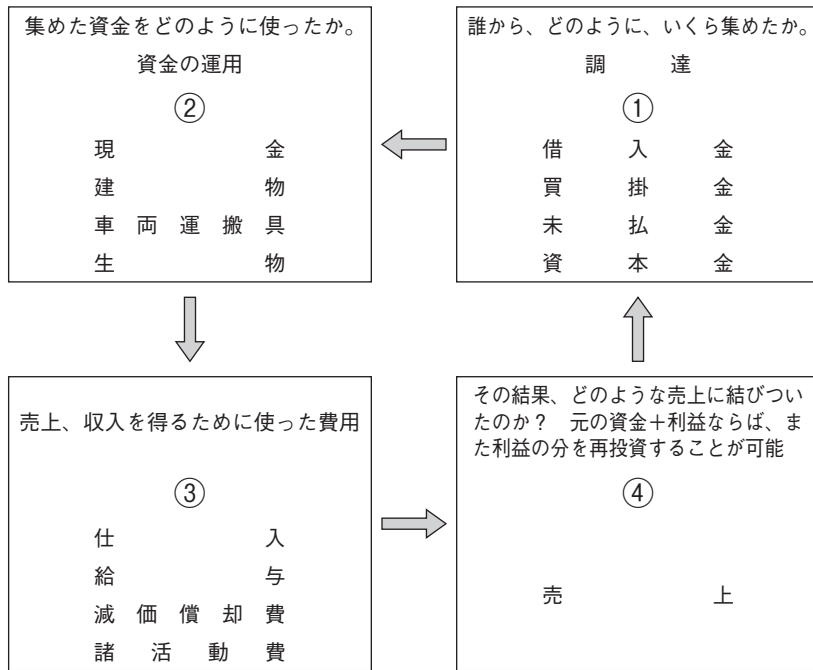
損益計算書で算定された利益 100
借入金の返済 △300

損益計算書の利益 - 借入金返済 = 資金過不足
100 - 300 = △200

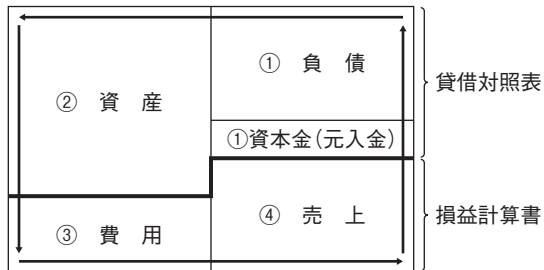
A農場は利益が100出ていますが、借入金の返済が300あるので資金が200不足します。このように、損益計算書では黒字であるにもかかわらず、資金の不足が原因で会社が倒産することがあります。これを**黒字倒産**といいます。

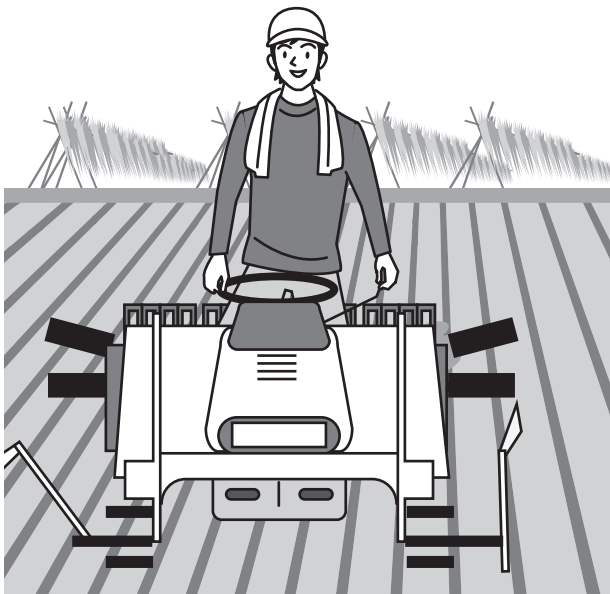
【参考】貸借対照表・損益計算書とお金の流れ

貸借対照表・損益計算書とお金の流れの関係を図示すると、以下のようになります。



(注) お金の流れは、①→②→③→④となる(左回り)。





第1章

農業簿記の概要

第2章 簿記一巡の 手続き

第3章

勘定科目

第4章

収益・費用の記帳方法

第5章

流動資産および流動負債など

第6章

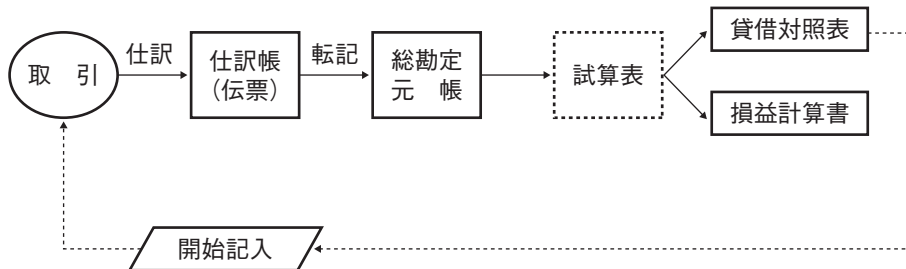
固定資産

第7章

決算書の作成

正しい経営成績、財政状態を表示するために行う、組織だった帳簿記帳の手続きを**簿記一巡の手続き**といいます。

簿記一巡の手続き



(1) 取引とは

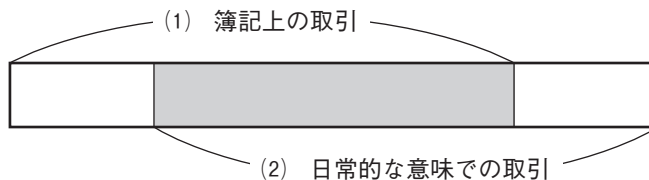
1. 取引の意味

農家が肥料を購入したり、銀行からお金を借りたり、借りている農地の地代を支払ったりすると、その農家の資産・負債・純資産・収益・費用に増減が起こります。

簿記ではこのような「資産・負債・純資産・収益・費用が増減することがら」を**取引**といいます。簿記でいう取引は、大体において日常的な意味での取引と同じですが、必ずしも一致するものではありません。

例えば、「A社とB社は仕事上の取引がある」、「新たな販売先を開拓して取引をすることになった」、「畑地を借りる契約をした」などは、簿記上の取引とはいえません。なぜなら、これらの事実によって農家の資産・負債・純資産に変動が生じていないからです。

一方、「農産物が盗まれた」あるいは「火災により納屋が焼失した」といった場合には、農家が所有する資産が減少しますので、簿記上の取引に該当します。



(1) 簿記上の取引になるもの	(2) 簿記上の取引にならないもの
畑地の地代50,000円を現金で支払った。 農薬200,000円を掛けで購入した。 火災で納屋が焼失した。 倉庫にあった耕うん機が盗まれた。	畑地70aを借りる契約をした。 収穫予定のスイカの予約注文を受けた。 新たに、店舗を借りる契約をした。

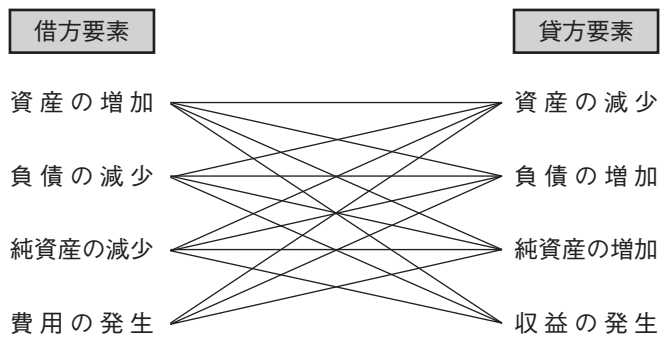
2. 取引の二重性と取引要素の結合関係

① 取引の二重性

複式簿記は、取引を原因と結果の2つの面からとらえて記入するため、経営の内容を正確に知ることができます。取引は、必ず借方と貸方の2面において変動を引き起こしますので、これを**取引の二重性**といいます。

② 取引要素の結合関係

取引の8要素



簿記では、左側を借方、右側を貸方と呼びます。
深く考えずに、そのまま暗記してくださいね♪



③ 貸借平均の原理

取引要素の結合関係は、借方要素と貸方要素とが1対1とは限りません。

例えば、耕うん機を1台購入し、代金の一部を現金で支払い、残金を未払いにした場合は、借方は資産（機械装置）の増加の1要素ですが、貸方は資産（現金）の減少と負債（未払金）の増加となります。

しかし、どのような取引であっても、借方の金額合計と貸方の金額合計は必ず一致します。これを**貸借平均の原理**といいます。

【例】

1. 現金100,000円を預金した。
 資産(普通預金)100,000円の増加 —— 資産(現金)100,000円の減少
2. 預金から30,000円を引き出し、現金で受け取った。
 資産(現金)30,000円の増加 —— 資産(普通預金)30,000円の減少
3. 賃金20,000円を現金で支払った。
 費用(賃金手当)20,000円の発生 —— 資産(現金)20,000円の減少
4. 野菜15,000円を掛けて販売した。
 資産(売掛金)15,000円の増加 —— 収益(野菜売上高)15,000円の発生
5. 売掛金が精算され、現金15,000円を受け取った。
 資産(現金)15,000円の増加 —— 資産(売掛金)15,000円の減少
6. 肥料18,000円を掛けて購入した。
 費用(肥料費)18,000円の発生 —— 負債(買掛金)18,000円の増加
7. 耕うん機を700,000円で購入し、代金のうち500,000円を現金で支払い、残額を未払いにした。
 資産(機械装置)700,000円の増加 —— 資産(現金)500,000円の減少
 負債(未払金)200,000円の増加
8. 借入金120,000円と利息10,000円との合計額を現金で支払った。
 負債(借入金)120,000円の減少 —— 資産(現金)130,000円の減少
 費用(支払利息)10,000円の発生 ——

3. 勘定・勘定科目・勘定口座・総勘定元帳

① 勘定とは

簿記では、取引があると帳簿に記入しますが、取引の内容を記録・計算する単位（区分）のことを**勘定**といい、大きくは貸借対照表勘定と損益計算書勘定とに分類されます。さらに貸借対照表勘定は、(イ)資産勘定、(ロ)負債勘定、および(ハ)純資産勘定に分類され、損益勘定は、(イ)収益勘定と(ロ)費用勘定とに分類されます。

② 勘定科目

勘定科目とは勘定につけられた名称のことであり、現金、普通預金、買掛金、借入金、資本金、野菜売上高、種苗費、肥料費、農薬費および賃金手当などがあります。詳しくは、第3章で説明します。

③ 勘定口座

勘定科目ごとの記録をする帳簿上の場所のことを**勘定口座**といいます。

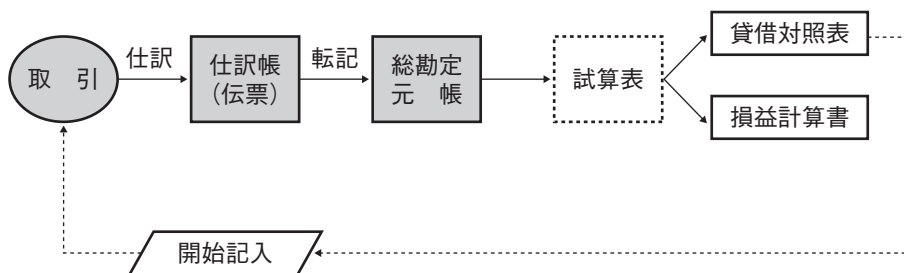
勘定口座の様式には標準式と残高式とがありますが、簿記の学習においては、簡略化したT字形の様式が使われます。

④ 総勘定元帳（元帳）

勘定科目ごとの記録をする帳簿上の場所のことを勘定口座といい、すべての勘定口座を集めた帳簿を**総勘定元帳**または**元帳**といいます。

(2) 仕訳と転記

私たちが日常的に行う記帳の主なもの、取引の仕訳と元帳への転記です。



1. 仕訳

① 仕訳とは

取引が生じた都度、適切な勘定科目と金額を決定し、その勘定科目と金額を借方（左側）と貸方（右側）に振り分ける作業を行います。これを**仕訳**といいます。

② 仕訳のルール

- (イ) 取引のあった日を決定します。
- (ロ) 取引を取引要素の結合関係に当てはめて分解します。
- (ハ) 各取引要素の勘定科目を決定します。
- (ニ) 勘定科目ごとの金額を決定します。

◆ 次の取引の仕訳を行いましょう ◆

1. 現金200,000円を出資して農業経営を開始した。

(借)	現	金	200,000	(貸)	資	本	金	200,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------
2. 現金100,000円を借り入れた。

(借)	現	金	100,000	(貸)	借	入	金	100,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------
3. 現金100,000円を普通預金に預け入れた。

(借)	普	通	預	金	100,000	(貸)	現	金	100,000
-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---------
4. 普通預金から30,000円を引き出し、現金で受け取った。

(借)	現	金	30,000	(貸)	普	通	預	金	30,000
-----	---	---	--------	-----	---	---	---	---	--------
5. 賃金20,000円を現金で支払った。

(借)	賃	金	手	当	20,000	(貸)	現	金	20,000
-----	---	---	---	---	--------	-----	---	---	--------
6. 野菜15,000円を掛けで販売した。

(借)	売	掛	金	15,000	(貸)	野	菜	売	上	高	15,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	--------
7. 売掛金が精算され、現金15,000円を受け取った。

(借)	現	金	15,000	(貸)	売	掛	金	15,000
-----	---	---	--------	-----	---	---	---	--------
8. 肥料18,000円を掛けで購入した。

(借)	肥	料	費	18,000	(貸)	買	掛	金	18,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------
9. 耕うん機を700,000円で購入し、代金のうち500,000円を現金で支払い、残額を未払いにした。

(借)	機	械	装	置	700,000	(貸)	現	金	500,000	
							未	払	金	200,000
10. 借入金120,000円と利息10,000円との合計額を現金で支払った。

(借)	借	入	金	120,000	(貸)	現	金	130,000			

2. 転記

① 転記とは

仕訳を各勘定科目ごとの勘定口座に書き移すことを**転記**といいます。
パソコン簿記では、仕訳を入力すると、転記が自動的に行われます。

② 転記のルール

- (イ) 取引のあった日付を記入します。
- (ロ) 仕訳の相手方の勘定科目名を記入します。
- (ハ) 取引のあった金額を記入します。

③ 転記のパターン

【例】

6月23日 機械装置350,000円を購入し、代金は現金で支払った。

仕訳帳： (機 械 装 置) 350,000 (現 金) 350,000

総勘定元帳： 機 械 装 置

(イ)取引の日付 ← 6/23 現 金 350,000

(ロ)仕訳の相手勘定科目を書く

(ハ)取引金額を書く

現 金

6/23 機械装置 350,000

(イ)取引の日付

(ハ)取引金額を書く

(ロ)仕訳の相手勘定科目を書く

◆ 次の取引の仕訳を行きましょう ◆

山田農場の取引は以下のとおりであった。

4/ 1 現金250,000円と土地1,000,000円とを出資して経営を開始した。

(借)	現	金	250,000	(貸)	資	本	金	1,250,000
	土	地	1,000,000					

4/ 2 種蒔き用として野菜種子10,000円を購入し、現金で支払った。

(借)	種	苗	費	10,000	(貸)	現	金	10,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

4/ 3 肥料15,000円を掛けで買った。

(借)	肥	料	費	15,000	(貸)	買	掛	金	15,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

4/ 4 J Aから350,000円を借り入れ、現金を受け取った。

(借)	現	金	350,000	(貸)	借	入	金	350,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

4/ 5 動力耕うん機350,000円を購入し、現金で支払った。

(借)	機	械	装	置	350,000	(貸)	現	金	350,000
-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---------

5/ 7 農薬25,000円を現金で買った。

(借)	農	薬	費	25,000	(貸)	現	金	25,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

7/20 野菜を収穫・販売し、代金130,000円を普通預金とした。

(借)	普	通	預	金	130,000	(貸)	農	産	物	売	上	高	130,000
-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---	---	---------

8/10 野菜50,000円を掛けで売った。

(借)	売	掛	金	50,000	(貸)	農	産	物	売	上	高	50,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	---	--------

8/30 肥料の買掛金15,000円を普通預金から支払った。

(借)	買	掛	金	15,000	(貸)	普	通	預	金	15,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	--------

◆ 左の取引の転記を行いましょう ◆

種 苗 費	
4/2 現 金	10,000
肥 料 費	
4/3 買掛金	15,000
機 械 装 置	
4/5 現 金	350,000
農 薬 費	
5/7 現 金	25,000
農産物売上高	
	7/20 普通預金 130,000
	8/10 売掛金 50,000
土 地	
4/1 資本金	1,000,000

現 金	
4/1 資本金	250,000
4 借入金	350,000
4/2 種苗費	10,000
5 機械装置	350,000
5/7 農薬費	25,000
買 掛 金	
8/30 普通預金	15,000
4/3 肥料費	15,000
借 入 金	
4/4 現 金	350,000
普 通 預 金	
7/20 農産物売上高	130,000
8/30 買掛金	15,000
売 掛 金	
8/10 農産物売上高	50,000
資 本 金	
4/1 諸 口	1,250,000

(注) 諸口は、仕訳の相手方の勘定科目が複数ある場合に、それらを1つにまとめて記載するとき 사용됩니다。

(3) 仕訳帳と総勘定元帳

1. 仕訳帳

① 仕訳帳とは、取引を仕訳する帳簿であり、仕訳日記帳ともいいます。仕訳帳には、発生した取引の仕訳のすべてを発生順に記入します。パソコン簿記では、仕訳を入力すると、自動的に仕訳帳へ日付順に記載されます。

② 仕訳帳の様式と記入方法

(イ) ページ欄…ページ番号を付します。

(ロ) 日付欄…取引の発生日を記入します。

(ハ) 摘要欄…中央から左側半分は借方科目、右側半分は貸方科目を行をずらして記入します。勘定科目は（ ）でくくります。

勘定科目が2つ以上あるときは、勘定科目のその上の行に諸口と記入します。勘定科目の下の行には、取引の内容を簡単に記入します。これを小書きといいます。

1つの取引の記入が終わったら、摘要欄の幅いっぱいに赤線を引きます。

(ニ) 元丁（丁数）欄…元帳へ転記した後に、転記した元帳の勘定口座のページ数または勘定科目につけた番号を記入します。

(ホ) 借方欄・貸方欄…勘定科目を記入した行と同じ行に借方、貸方それぞれの金額を記入します。

××年		仕 訳 帳			
4	1	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
		諸 口 (資 本 金)	11		1,200,000
(ロ)		(現 金)	1	900,000	
		(器 具 備 品)	7	300,000	
		農業を開始			

(イ)
(ニ)
(ホ)

【例題】1 仕訳帳の記入の仕方（山田農場の例）

		仕 訳 帳			
××年		摘 要	元 丁	借 方	貸 方
4	1	諸 口 (資 本 金)	8		1,250,000
		(現 金)	1	250,000	
		(土 地)	5	1,000,000	
		現金と土地を出資			
	2	(種 苗 費)	10	10,000	
		(現 金)	1		10,000
		野菜種子を購入			
	3	(肥 料 費)	11	15,000	
		(買 掛 金)	6		15,000
		肥料を購入			
	4	(現 金)	1	350,000	
		(借 入 金)	7		350,000
		J Aより借入れ			
	5	(機 械 装 置)	4	350,000	
		(現 金)	1		350,000
		動力耕うん機を購入			
5	7	(農 薬 費)	12	25,000	
		(現 金)	1		25,000
		農薬を購入			
7	20	(普 通 預 金)	2	130,000	
		(農産物売上高)	9		130,000
		野菜を販売、代金は普通預金に			
8	10	(売 掛 金)	3	50,000	
		(農産物売上高)	9		50,000
		野菜を掛け売り			
	30	(買 掛 金)	6	15,000	
		(普 通 預 金)	2		15,000
		肥料の買掛金を普通預金から支払い			

2. 総勘定元帳の記入方法

① 勘定口座の様式

勘定口座の様式には標準式と残高式とがあり、標準式は、中央から左側を借方欄、右側を貸方欄に区分しています。一方、残高式は、借方欄・貸方欄のほかに残高欄があり、常に残高が分かるようになっています。実務では残高式が広く採用されています。

総勘定元帳の勘定口座の様式

(標準式)			現 金					1
××年	摘 要	仕 丁	借 方	××年	摘 要	仕 丁	貸 方	

(残高式)		現 金					1
××年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 また は 貸	残 高	

② 総勘定元帳の記入方法

残高式による総勘定元帳の記入方法は、以下のとおりです。

- (イ) 口座番号…各勘定口座の一連のページ数（勘定科目につけた番号）を記入します。
- (ロ) 日付欄…仕訳の日付を記入します。
- (ハ) 摘要欄…相手科目を記入、相手科目が2つ以上あるときは諸口と記入します。

(残高式)		現 金					(イ) 1
××年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 また は 貸	残 高	

【例題】1で記帳した山田農場の仕訳帳から前ページの要領で総勘定元帳へ転記すると、次のようになります。

総 勘 定 元 帳

				現 金			1	
××年	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借または貸	残 高		
4	1	資 本 金	1	250,000		借	250,000	
	2	種 苗 費	1		10,000	〃	240,000	
	4	借 入 金	1	350,000		〃	590,000	
	5	機 械 装 置	1		350,000	〃	240,000	
5	7	農 薬 費	1		25,000	〃	215,000	
				普 通 預 金			2	
7	20	農 産 物 売 上 高	1	130,000		借	130,000	
8	30	買 掛 金	1		15,000	〃	115,000	
				売 掛 金			3	
8	10	農 産 物 売 上 高	1	50,000		借	50,000	
				機 械 装 置			4	
4	5	現 金	1	350,000		借	350,000	
				土 地			5	
4	1	資 本 金	1	1,000,000		借	1,000,000	
				買 掛 金			6	
4	3	肥 料 費	1		15,000	貸	15,000	
8	30	普 通 預 金	1	15,000		—	0	
				借 入 金			7	
4	4	現 金	1		350,000	貸	350,000	
				資 本 金			8	
4	1	諸 口	1		1,250,000	貸	1,250,000	

農産物売上高							9
××年		摘要	仕丁	借方	貸方	借または貸	残高
7	20	普通預金	1		130,000	貸	130,000
8	10	売掛金	1		50,000	〃	180,000
種 苗 費							10
4	2	現金	1	10,000		借	10,000
肥 料 費							11
4	3	買掛金	1	15,000		借	15,000
農 薬 費							12
5	7	現金	1	25,000		借	25,000

(4) 伝票による仕訳と総勘定元帳への転記

1. 伝票の役割

取引の仕訳を仕訳帳に記入しますが、取引を整理し正確に処理するために、仕訳帳と併せて伝票が用いられています。

2. 伝票による会計処理

伝票による仕訳処理の方法として1伝票制、3伝票制さらに5伝票制があります。

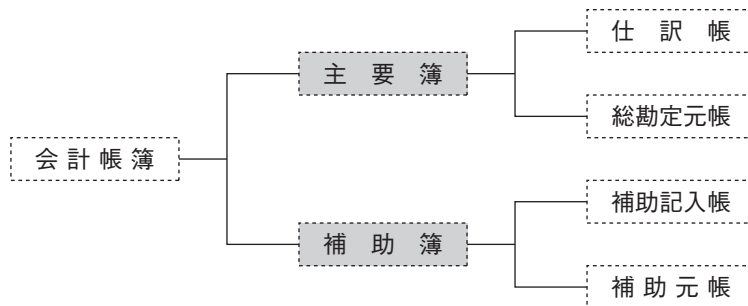
これは、文字どおり使用する伝票の種類数によります。パソコン簿記では、振替伝票を使用する1伝票制が主流です。

【例】

4/10 鈴木商店へメロン50,000円を現金で販売した。

振替伝票		No. 2		承認印	主帳印	会計印	係印
××年 4月 10日				①	①	①	①
金額	借方科目	摘要	貸方科目	金額			
50000	現金	鈴木商店へ メロン販売	農産物売上高	50000			
50000		合計		50000			

(5) 主要簿と補助簿



1. 主要簿

主要簿とは、すべての取引をその発生した順に記録した帳簿であり、仕訳帳と総勘定元帳のことをいいます。

2. 補助簿

① 補助簿の役割

主要簿である仕訳帳や総勘定元帳の記録だけでは十分でない場合、これを補うための帳簿を補助簿といいます。

補助簿は企業の必要に応じて作成され、主要簿のように、必ず作成されるものではありません。

【例】山田農場

現金	勘定の借方合計	600,000
普通預金	〃	130,000
売掛金	〃	50,000
機械装置	〃	350,000
土地	〃	1,000,000
買掛金	〃	15,000
種苗費	〃	10,000
肥料費	〃	15,000
農薬費	〃	25,000

現金	勘定の貸方合計	385,000
普通預金	〃	15,000
買掛金	〃	15,000
借入金	〃	350,000
資本金	〃	1,250,000
農産物売上高	〃	180,000

計2,195,000円

← 必ず一致します →

計2,195,000円

したがって、総勘定元帳のすべての勘定の借方に記入された金額の合計額と貸方に記入された金額の合計額も必ず一致します。

2. 試算表の種類と役割

① 合計試算表・残高試算表・合計残高試算表

各勘定の借方合計と貸方合計を集計して作成する試算表を**合計試算表**といいます。

これに対して各勘定の残高を集計して作成する試算表を**残高試算表**といいます。

さらに合計試算表と残高試算表とを合わせて1つの表にまとめた表を**合計残高試算表**といいます。

② それぞれの試算表の役割

(イ) 合計試算表

a. 総勘定元帳転記の正否の確認

仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しくなされていれば、残高の貸借は必ず一致します。

b. 合計金額は、仕訳帳の合計金額とも一致します。

c. 企業の取引総額が表示されるので、経営活動の判断資料として役立ちます。

合 計 試 算 表

××年8月31日 (単位：円)

日付を忘れずにネ

借方合計	勘 定 科 目	貸方合計
600,000	現 金	385,000
130,000	普 通 預 金	15,000
50,000	売 掛 金	
350,000	機 械 装 置	
1,000,000	土 地	
15,000	買 掛 金	15,000
	借 入 金	350,000
	資 本 金	1,250,000
	農 産 物 売 上 高	180,000
10,000	種 苗 費	
15,000	肥 料 費	
25,000	農 薬 費	
2,195,000		2,195,000

仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しくなされていれば、貸借は必ず一致します。

(ロ) 残高試算表

a. 総勘定元帳転記の正否の確認

仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しくなされていれば、貸借は必ず一致します。

b. 決算を行う際の基礎資料となりますので、決算の際には必ず作成されます。

残 高 試 算 表

××年8月31日

(単位：円)

借方残高	勘 定 科 目	貸方残高
215,000	現 金	
115,000	普 通 預 金	
50,000	売 掛 金	
350,000	機 械 装 置	
1,000,000	土 地	
	買 掛 金	
	借 入 金	350,000
	資 本 金	1,250,000
	農 産 物 売 上 高	180,000
10,000	種 苗 費	
15,000	肥 料 費	
25,000	農 薬 費	
1,780,000		1,780,000

(ハ) 合計残高試算表

取引の総額や残高を知るのに便利です。

合計残高試算表

××年8月31日

(単位：円)

借		方	勘定科目	貸	
残高	合計	合計		残高	
215,000	600,000		現金	385,000	
115,000	130,000		普通預金	15,000	
50,000	50,000		売掛金		
350,000	350,000		機械装置		
1,000,000	1,000,000		土地		
	15,000		買掛金	15,000	
			借入金	350,000	350,000
			資本金	1,250,000	1,250,000
			農産物売上高	180,000	180,000
10,000	10,000		種苗費		
15,000	15,000		肥料費		
25,000	25,000		農薬費		
1,780,000	2,195,000			2,195,000	1,780,000

第1章

農業簿記の概要

第2章

簿記一巡の手続き

第3章

勘定科目

第4章

収益・費用の記帳方法

第5章

流動資産および流動負債など

第6章

固定資産

第7章

決算書の作成

(1) 農業簿記の勘定科目

簿記は業種によって商業簿記、工業簿記などがあり、それぞれ勘定科目や体系の違いなどによって区別されています。農業には生産活動と販売活動がありますので、**農業簿記**は、販売活動については商業簿記の取引勘定を基本に、生産活動については工業簿記の製造原価計算の考え方を取り込んだ仕組みになっています。

勘定科目は、それぞれの経営実態に応じ、後々の経営分析などを考慮しながらその業種の標準的なものに準じて設定します。

1. 勘定科目の区分

複式簿記では、取引を資産・負債・純資産の増減および収益・費用の発生に分類し、帳簿に記録・計算します。この記録・計算するための区分を**勘定**といいます。この勘定区分は大きく分けて次の5つに区分されます。

資産勘定 (増減)	}	貸借対照表の勘定
負債勘定 (増減)		
純資産勘定 (増減)		
費用勘定 (発生)	}	損益計算書の勘定
収益勘定 (発生)		

2. 貸借対照表の勘定科目

① 資産勘定

資産勘定の性質をもつ勘定科目には、以下のようなものがあります。

当座資産	現金、普通預金、当座預金、定期預金、受取手形、売掛金、未収入金など
棚卸資産	『農業独特な科目で所得税の計算上、売価計上されるもの』 農産物（玄米・麦・大豆など） 『通常の棚卸資産の科目で原価計上されるもの』 商品、製品、仕掛品（未収穫農産物、肥育牛・肥育豚など）、原材料（肥料、農薬、諸材料など）、貯蔵品など
その他の流動資産	前払金、前払費用、貸付金、立替金、仮払金、仮払消費税など
有形固定資産	建物、構築物、機械装置、車両運搬具、器具備品、生物（繁殖牛、果樹など）、土地、バラ親株など、育成仮勘定（育成樹・ほだ木・育成牛など、いわゆる将来固定資産に計上されるもの）（機械装置、器具備品については 農機具等 とする場合もある）

無形固定資産	借地権、営業権、ソフトウェアなど
投資その他の資産	出資金、保険積立金、経営安定積立金、客土など
繰延資産	開業費など

② 負債勘定

負債勘定の性質をもつ勘定科目には、以下のようなものがあります。

買掛金、未払金、支払手形、借入金（長期・短期）、未払費用、預り金、前受金、仮受消費税など

③ 純資産勘定

純資産勘定の性質をもつ勘定科目には、以下のようなものがあります。

資本金（所得税の青色申告決算書では、**元入金**）

3. 損益計算書の勘定科目

① 収益勘定科目

収益勘定の性質をもつ勘定科目には、以下のようなものがあります。

営業収益	農産物売上高（水稲、野菜、果実、花卉、牛乳、子牛、肉用牛、鶏卵、 廃鶏、わら、堆肥などと売上を種類別に区分する）、（乳牛などの）生物 売却収入など
営業外収益	受取利息、作付助成収入、雑収入など
特別利益	固定資産売却益など

（注）固定資産のうち、畜産農業における繁殖用の牛や豚、種付用の豚などの反復継続した売却は、生物売却収入（営業収益）として計上する。

② 費用勘定科目

費用勘定の性質をもつ勘定科目には、以下のようなものがあります。

製造原価	種苗費、素畜費、肥料費、飼料費、農薬費、賃金手当、福利厚生費、動力光熱費、農具費、諸材料費、減価償却費、修繕費、土地改良費、共済掛金、租税公課、支払地代、作業委託費など
販売費および一般管理費	給料手当、販売手数料、荷造運賃、福利厚生費、作業衣料費、消耗品費、事務通信費、旅費交通費、交際費、図書研修費、貸倒損失、貸倒引当金繰入額、雑費など
営業外費用	支払利息など
特別損失	固定資産除却損、災害損失など

(2) 農業経営と勘定科目

我が国の農業総産出額はおよそ8兆8,000億円（平成27年）です。その内訳は米（17%）、野菜（27%）、果実（9%）、畜産（35%）、その他（12%）に分けられます。このように農業といってもその経営は同じではなく、取引内容が大きく異なります。ですから、貸借対照表、損益計算書にあらわされる勘定科目も一様ではありません。その経営内容に必要な科目と必要でない科目を取捨選択し、それぞれの業態に合う勘定科目を使います。

1. 具体的な勘定科目

下線_____は所得税の所得計算において使用する勘定科目、四角囲み□は生産品目ごとに特有の勘定科目です。

① 稲作

貸借対照表勘定

(資産勘定) 現金、普通預金、定期預金、売掛金、未収入金、前渡金、 <u>農産物</u> 、 <u>仕掛品</u> 、原材料、建物、構築物、機械装置、車両運搬具、器具備品、土地、建設仮勘定、出資金など	(負債勘定) 買掛金、未払金、前受金、仮受金、預り金、借入金（長期・短期）など (純資産勘定) 資本金（ <u>元入金</u> ）、 <u>事業主借</u> 、 <u>事業主貸</u> （▲）、当期純利益
---	---

損益計算書勘定

(費用勘定) ・種苗費、肥料費、農薬費、諸材料費、賃金手当、動力光熱費、農具費、修繕費、土地改良費、減価償却費など ・荷造運賃、作業衣料費、事務通信費、消耗品費、図書研修費、交際費、租税公課、雑費など ・支払利息、固定資産除却損など	(収益勘定) <u>水稻売上高</u> 、 <u>小麦売上高</u> 、 <u>大豆売上高</u> 、 <u>作業受託収入</u> 、作付助成収入、賃貸料収入、受取共済金など
---	--

② 野菜

貸借対照表勘定

(資産勘定) 現金、普通預金、定期預金、売掛金、未収入金、前渡金、 <u>農産物</u> 、 <u>仕掛品</u> 、原材料、建物、構築物、機械装置、車両運搬具、器具備品、土地、建設仮勘定、出資金など	(負債勘定) 買掛金、未払金、前受金、仮受金、預り金、借入金(長期・短期)など
	(純資産勘定) 資本金(元入金)、事業主借、事業主貸(▲)、当期純利益

損益計算書勘定

(費用勘定) ・種苗費、肥料費、農薬費、諸材料費、賃金手当、動力光熱費、農具費、修繕費、土地改良費、減価償却費など ・荷造運賃、作業衣料費、事務通信費、消耗品費、図書研修費、交際費、租税公課、雑費など ・支払利息、固定資産除却損など	(収益勘定) <u>野菜売上高(または、「トマト売上高」など品名を付すこともある)</u> 、 <u>作業受託収入</u> 、価格補填収入、賃貸料収入、受取共済金など
---	--

③ 果樹

貸借対照表勘定

(資産勘定) 現金、普通預金、定期預金、売掛金、未収入金、前渡金、 <u>製品</u> 、 <u>仕掛品</u> 、原材料、建物、構築物、機械装置、車両運搬具、器具備品、土地、 <u>生物</u> 、 <u>育成仮勘定</u> 、出資金など	(負債勘定) 買掛金、未払金、前受金、仮受金、預り金、借入金(長期・短期)など
	(純資産勘定) 資本金(元入金)、事業主借、事業主貸(▲)、当期純利益

損益計算書勘定

(費用勘定) ・種苗費、肥料費、農薬費、諸材料費、賃金手当、動力光熱費、農具費、修繕費、土地改良費、減価償却費など ・荷造運賃、作業衣料費、事務通信費、消耗品費、図書研修費、交際費、租税公課、雑費など ・支払利息、固定資産除却損など	(収益勘定) <u>果実売上高(または、「ぶどう売上高」など品名を付すこともある)</u> 、 <u>作業受託収入</u> 、賃貸料収入、受取共済金など
---	---

④ 畜産

貸借対照表勘定

<p>(資産勘定)</p> <p>現金、普通預金、定期預金、売掛金、未収入金、前渡金、<u>仕掛品</u>、原材料、建物、構築物、機械装置、車両運搬具、器具備品、<u>生物</u>、土地、<u>育成</u> <u>仮勘定</u>、出資金など</p>	<p>(負債勘定)</p> <p>買掛金、未払金、前受金、仮受金、預り金、借入金(長期・短期)など</p> <hr/> <p>(純資産勘定)</p> <p>資本金(元入金)、<u>事業主借</u>、<u>事業主貸</u>(▲)、当期純利益</p>
--	---

損益計算書勘定

<p>(費用勘定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗費、<u>素畜費</u>、肥料費、<u>飼料費</u>、<u>農薬費</u>、諸材料費、賃金、動力光熱費、農具費、修繕費、診療衛生費、減価償却費、生物売却原価など ・荷造運賃、作業衣料費、事務通信費、消耗品費、図書研修費、交際費、租税公課、雑費など ・支払利息、固定資産除却損など 	<p>(収益勘定)</p> <p><u>牛乳売上高</u>、<u>肉用牛売上高</u>、<u>子牛売上高</u>、<u>鶏卵売上高</u>、<u>堆肥売上高</u>、<u>作業受託収入</u>、<u>生物売却収入</u>、価格補填収入、賃貸料収入、作付助成収入、受取共済金など</p>
---	--